

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3年計画の 2年度目)

1. 研究課題

(和文) 日本の文学理論・芸術理論

(英文) Theories of Literature and Arts in Japan

2. 研究代表者

(氏名) 大浦康介

3. 研究期間

平成 23年 4月 から 平成 26年 3月 まで

4. 研究目的 (400字程度)

日本ではこれまで(主に大学で)どのような文学・芸術理論が教えられてきたか、また日本に「土着の」文学・芸術理論があるとしたらそれはどのようなものか——これら二つの問いを中心的課題として研究を進める。前者は明治以降における英・独・仏の文芸理論の移入という問題と重なるだろうし、後者は近代以前も含めた、日本の歌論、物語論、芸能論、批評理論等の掘り起こしとその西洋理論との突き合わせという問題だと言い換えられるだろう。これらの問いを西洋理論の専門家が提起し、日本の文学や芸術の専門家を交えた場で討論したい。

5. 本年度の研究実施状況 (400字程度)

本研究会では、平成23年3月14日に準備会を開いたあと、4月から、おもに明治以降の主要な文学・芸術理論関係の文献を班員全員で読み、それについて討論するという形式で研究会を開催した。12月18日と平成24年3月5日は、ゲストをお招きして、ミニシンポジウム形式で行った。内容は以下のとおり。

- 4月18日 : 上田真『日本の文学理論—海外の視点から』を読む(1) (岩松正洋担当)
- 5月9日 : 上田真『日本の文学理論—海外の視点から』を読む(2) (岩松正洋担当)
- 5月23日 : 漱石の『文学論』をめぐって (大浦康介担当)
- 6月6日 : 岡崎義恵『文藝學概論』を読む(1) (河田学担当)
- 6月20日 : 岡崎義恵『文藝學概論』を読む(2) (河田学担当)
- 7月4日 : 「筋のない小説論争」をめぐって (日高佳紀担当)
- 9月19日 : 竹内敏雄『文藝學序説』を読む(1) (久保昭博担当)
- 10月3日 : 竹内敏雄『文藝學序説』を読む(2) (久保昭博担当)
- 10月17日 : 小西甚一『日本文藝史—別巻 日本文学原論』を読む(1) (重田みち担当)
- 11月7日 : 小西甚一『日本文藝史—別巻 日本文学原論』を読む(2) (重田みち担当)
- 11月21日 : 野家啓一『物語の哲学』を読む (斉藤涉担当)

- 12月5日 : 鈴木貞美『日本の「文学」概念』『「日本文学」の成立』を読む (大浦康介担当)
- 12月18日 : 『日本文学からの批評理論』をめぐるミニシンポジウム (ゲスト:高木信、木村朗子、安藤徹)
- 1月16日:江藤淳『リアリズムの源流』を読む(岩松正洋担当)
- 2月6日:興膳宏「中国における文学理論の誕生と発展—六朝から唐・宋へ」を読む(高木雅恵担当)
- 2月20日:野口武彦『三人称の発見まで』を読む(中村ともえ担当)
- 3月5日:ゲスト:石原千秋「戦後、日本近代文学研究の方法」
- 3月19日:坂部恵『かたり』を読む(北村直子担当)

6. 研究成果の概要 (400字程度)

初年度である本年度の成果は、なによりも文学理論関係の重要文献(夏目漱石、上田真、岡崎義恵、竹内敏雄、小西甚一、興膳宏、野口武彦等)の会読をつうじた班員による基本情報の共有である。この作業は今後も続けてゆくつもりである。また、『日本文学からの批評理論』をめぐるミニシンポジウム(12月18日)における日本文学研究者との意見交換から見えてきたのは、たとえば物語研究における西洋文学研究者と日本文学研究者とのあいだの理論的出発点の違いである(この点では、いわゆる「物語研究会」が日本文学研究者に及ぼした影響は大きい)。こうした「違いの認識」は、これから進むべき研究方向を見定めるうえできわめて重要だと考えている。

7. 共同研究会に関連した公表実績(出版、公開シンポジウム、学会分科会、電子媒体など)

- 『日本文学からの批評理論』をめぐるミニシンポジウム (平成23年12月18日)
- 石原千秋氏講演会「戦後、日本近代文学研究の方法」(半公開、平成24年3月5日)
- 研究会ホームページ (<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~theory.jp/>)をつうじた文学理論関連文献リストの公表

8. 本年度の共同利用・共同研究の参加状況

区分	所属機関数	参加人数	延べ人数
学内	2	5	90
国立大学	5	6	108
公立大学	1	1	18
私立大学	6	6	108
大学共同利用機関法人			
民間・独立行政法人等			
外国の研究機関			
(うち大学院生)	(2)	(3)	(54)
計	14	18	324

※当該年度の共同利用・共同研究参加者の所属機関数、参加人数、延べ人数を区分に応じて記入して下さい。

※「学内」の所属機関数は「学部数」等を記入して下さい。

※参加人数及び延べ人数の算出方法は、以下の例に基づき算出して下さい。

(例)

- ・ 1つの共同利用・共同研究課題で2人を共同研究員として3日間受け入れた（参加した場合）：参加人数2人、延べ人数6人

9. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

論文数	3
上記のうち国際学術誌に掲載された論文数	0

※研究者がファーストオーサーであること。学内の紀要等に発表されたものを除く

なお、高いインパクトファクターを持つ雑誌等に掲載された論文がある場合、その雑誌、掲載論文、そのうち主な論文の詳細等

掲載雑誌名等	論文名	発表者氏名